

～『知っておきたいがん検診』～

鹿児島県臨床検査技師会 会長 有村 義輝

新春のお慶び申し上げます。

鹿児島市医師会の先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃から鹿児島県臨床検査技師会の運営に際しまして、心温かいご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

がん検診にはさまざまな種類がありますが、厚生労働省は、胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮頸（けい）がん、この5つのがんに対し、定期的にがん検診を受けることを推奨しています。これらのがんは、かかる患者さんの割合（り患率）や死亡率が高い一方、がん検診を行うことで集団の死亡率を下げる効果があることが確認されています。がんを早期発見し、適切な治療を行うことががんによる死亡を減少させることにつながります。しかし、単に多くのがんを見つけることががん検診の目的ではありません。日本のがん検診には、予防対策として行われる公共的なサービスとしての対策型検診と、医療機関・検診機関などが任意で提供するサービスとしての任意型検診の2種類があります。今回、それぞれのがん検診の検査についてまとめてみました。

まずは肺がん検診ですが、がんの初期段階から見られる症状には「咳、痰、胸の痛み、発熱」といったものがありますが、早期の場合、風邪の症状と取り違える可能性が高いです。肺がん検査の胸部X線検査・喀痰細胞診検査・腫瘍マーカー検査・CT検査などにより見分けることができます。次に胃がんでは胃炎や胃潰瘍そして胃がんなどの原因菌として知られているヘリコバクター・ピロリ菌に感染しているか、どうかが重要な因子あります。胃がん発生の仮説として正常胃粘膜 表層性胃炎 萎縮性胃炎 腸上皮化生 がんと言われており、胃の粘膜を傷つけるピロリ

菌検出は有効な検査となっています。次に大腸がん、検査として便ヘモグロビン二日法があります。大腸にがんやポリープがあると便に混ざったり便が出てくる時にこすられて血液がきます。その便の潜血を検出することを目的としてあります。しかし、大腸がん検診は、便潜血検査の精度面、クオリティの部分で受診者に委ねられている部分が大変多くあります。便の採取方法も重要な要素であり、その方法は便に突き刺すのではなく表面をできるだけ広範囲にこすりとることが必要です。子宮頸がんの検査方法としては細胞診検査があります。ブラシやヘラなどで子宮頸部を優しくこすり細胞を採取します。ほとんど痛みは無く、短時間ですみます。最後に乳がんの検査方法は代表的なものにマンモグラフィ検査があります。これは乳房専用のX線検査でしこりになる前の石灰化した小さな乳がんを発見するための検査です。乳房を2枚の板で挟み、乳房全体を撮影します。病変が見つかりやすいX線画像を撮影するために、乳房を出来るだけ平たくする必要があります。

以上、各がん検診はそれぞれ特異性があり、また、がんには見つけて治しやすいタイミングがあります。定期的な検診を受け早期に発見されれば治療効果が期待できます。まずは、予防の重要性を徹底し検診を推奨し、そして不運にもがんになってしまったら、1人で悩まず苦しまず、自分の意思を理解してくれる人を持つことが大事なことです。

結びに、検査を通して技師会としての機能を十分に發揮し、鹿児島市医師会の先生方の診療支援チームの一員として活躍できる臨床検査技師の育成に努めるべく、技師会活動を行なう所存でありますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。